

# 挑む

モノづくり ヒトづくり

（履歴管理）ニーズにも対応した。渡辺社長に話を聞いた。  
（渋谷拓海）

―導入のきっかけを教えてください。

「デジタルパネルメーターなどの計測制御機器を製造する当社は、客先の要望に応じて少しずつ仕様変更する典型的な少量多品種産業だ。そのため人間が個別検査せざるを得なかった。ただ、そうなる」とこの製品はこの人にとまってしまつ。繁忙期には特定の検査者に業務が集中し、ミスが出ていた」

―検査の概要は。

「自前で検査用ボックス種の9割となる約5000種の製品を検査し、記録はすべてデータで保存している。省人化のほか、近年高圧電流や電圧などの数値異常がないか確認する。検査データは自動保存され、必要に応じて紙に印刷する仕組みだ。従来はこれをすべて手作業でこなしていた」



渡辺電機工業社長

渡辺 秀禧氏

## 自動検査で納期スムーズに

―投資額は。

「ソフト制作を外注したことなどにより約3600万円かかった。福島工場では2018年から投入し、現在は42セットが稼働している。当社製品の平均単価は1方―2万円ほどだが、数億円規模の設備に組み込まれる。検査ミスをなくすることは長年の課題だった」

―どのような効果がありましたか。

「導入から2年で検査ミスはない。また検査のために納品が滞ることはなくなった。近年高まっているトレーサビリティにも対応できた。さらに副次的な効果もあった。従来は被検査製品10個の場合、全数検査の上で1個だけ紙の記録を保存していた。現在は全ての検査記録をデータで保存している。この取り組みの中で設計の複雑さなど問題点に気づき、標準化の取り組みを始めた」

―今後の方針は。

「福島工場は旭計器（東京都港区）から事業譲渡を受け10年に当社グループに加わったが、よく頑張ってくれている。創業80周年を迎え、当社理念などをまとめた冊子『こだわり』を活用して一体感を高めたい」